

氏名	森 本 浩 平
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 4 2 号
学位授与の日付	昭和36年 3 月31日
学位授与の要件	医学研究科外科系外科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	膵内分泌の胃潰瘍発生因子に関する実験的研究
論文審査委員	教授 砂田輝武 教授 陣内伝之助 教授 浜崎幸雄

学 位 論 文 内 容 要 旨

膵内分泌が胃、十二指腸潰瘍の発生に関与していることは古くから推測されているが、いまだ一致した見解はない。著者はこの点を明らかにするため、ラットに持続性インシュリンを投与し、潰瘍発生の有無を種々の観点から追求し、またアロキサンによる膵内分泌障害が潰瘍発生におよぼす影響を検索した。

ラットに持続性インシュリンを投与すると胃粘膜に出血性エロジオンが発生し、これは低血糖性ショックに関係があり、主として迷走神経の刺戟による胃壁循環障害の結果で、さらに低血糖による粘膜の組織抵抗性の弱化が関与することを観察した。

アロキサン糖尿ラットのインシュリンによる胃出血性エロジオンの発生頻度は対照と差がなく、その胃液分泌機能は低下し高血糖は潰瘍発生に関係ないことを認めた。

以上のことから糖代謝異常と潰瘍発生の関係を強調、膵内分泌は低血糖を介して潰瘍発生に関与すると結論した。

第1編 インシュリン潰瘍について

(昭和35年10月岡山医学会雑誌第72巻第8, 9, 10合併号に掲載)

第2編 アロキサン糖尿病と潰瘍の関係

(昭和35年10月岡山医学会雑誌第72巻第8, 9, 10合併号に掲載)

論文審査の結果の要旨

森本浩平提出の「膵内分泌の胃潰瘍発生因子に関する実験的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

膵内分泌が胃十二指腸潰瘍の発生に関与することは古くから推測されているが、いまだ一致した見解はないので、著者は膵内分泌異常が潰瘍を発生させる機序を明らかにし、糖代謝と潰瘍の関係をしるため、ラットに持続的インシュリンを投与し潰瘍発生の有無を種々の点から追求し、またアロキサンの膵インシュリン分泌機能障害が潰瘍発生に及ぼす影響を検討した。その成績によると、ラットにインシュリンを投与した場合、本胃体部粘膜に出血性エロジオンが発生し、しかもこれは低血糖性ショックにおちいったものみにみられ、かつ迷走神経切断例に発生しないことからこの発生機序は主として迷走神経を介する胃壁血管の変化によるものと解せられるが、さらに低血糖による粘膜の組織抵抗性の減弱もこれに関与することを観察した。次にアロキサン糖尿ラットのインシュリンによる胃血性エロジオンの発生頻度は対照と差がなく、その胃液分泌機能は低下し、高血糖は潰瘍発生に関係ないことを認めた。これらの知見より著者は糖代謝異常と潰瘍発生との関係を強調し、膵内分泌が潰瘍発生に関与するのは低血糖を介するものであると結論した。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。